

# 山行報告書

作成:2013年12月1日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	立山・室堂初滑り山行	目的[方法]	初滑りを楽しむ
期間	2013年11月23日(土)-24日(日)	形態	テント泊
参加人数	3人		

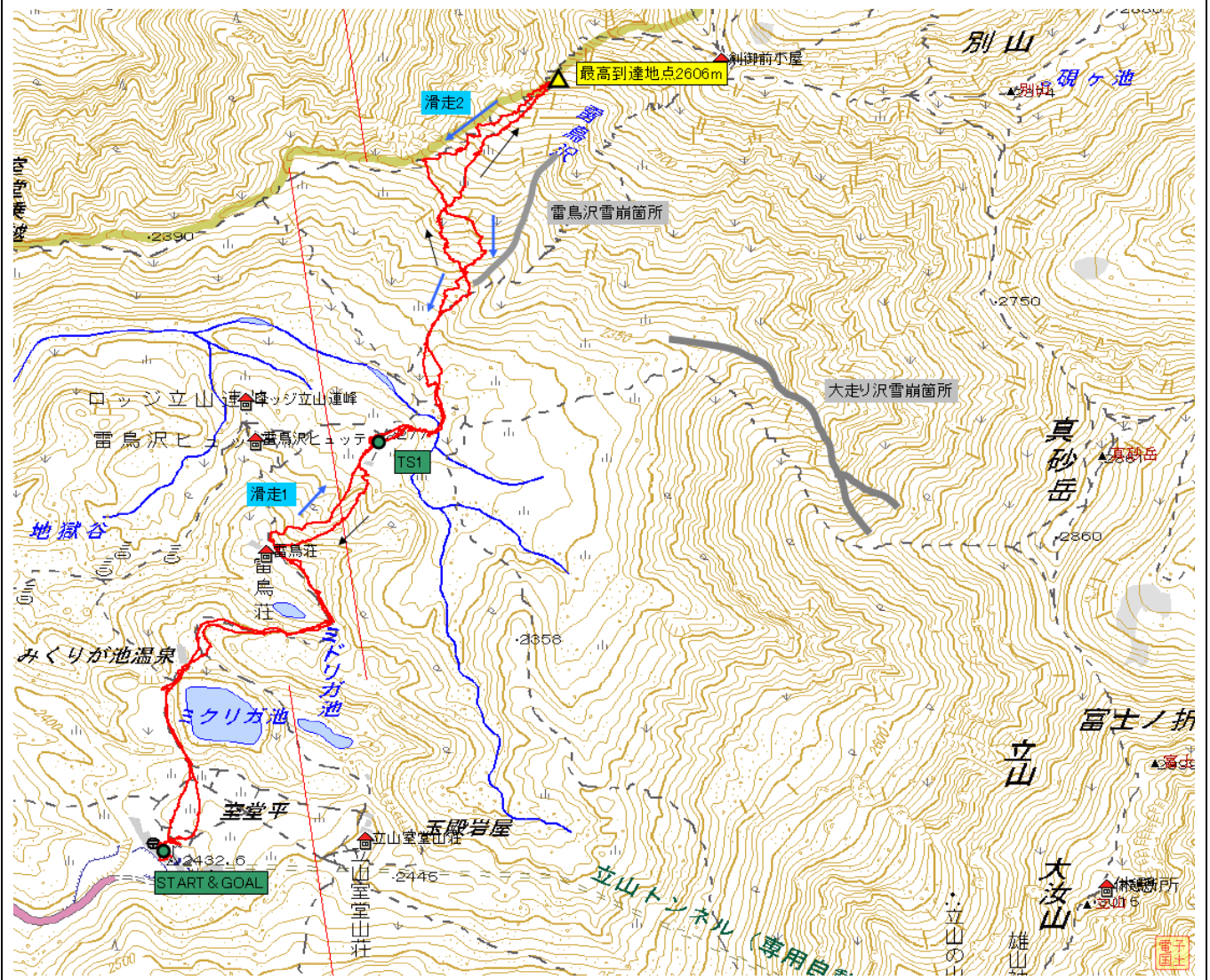
## 行動記録:

11/23(土)S宅P(3:30)=0:10=豊田東IC(3:40)=3:00=立山IC(6:40)=0:45=立山駅PKG(7:25,9:40)++1:05++室堂駅(10:45,11:10)--1:10--雷鳥沢キャンプ場{テント設営}(12:20,13:35)→1:50→雷鳥沢2606m地点(滑走開始)(15:05)--0:35--雷鳥沢キャンプ場TS1(15:40)

## 8/14(日):

雷鳥沢キャンプ場(06:00,08:15)--0:55--室堂駅(09:10,10:00)--1:05--立山駅(11:05,11:30)++0:05++ウエルサンピア立山(11:35,12:25)=1:05=めん八(13:30,14:05)=1:10=五箇山相倉集落(15:15,16:10)=0:20=五箇山IC(16:30)=2:50=豊田東IC(19:20)=0:15=鈴木宅P(19:35)

## 概念図:



日誌:

土曜日初日前までの4日間悪天候のため、富山側からのアルペンルートアクセスは運休。土曜は快晴。立山駅に着くと線路脇の奥のほうはまだ駐車場が空いていた。準備をし、切符売り場に行くと列が来ている。観光客よりも滑走者がほとんど。切符を買うものの高原バスの除雪のため、予定より30分待つことに。室堂に着くと、すかっぱれで昨日までの降雪で白銀の世界。テンションが上がる。シュプールも刻まれている。歩き出すと暖かいため汗が滲む。ヘリが何度も往復しているためなんだろうと話しながらテン場に向かう。真砂岳の大走り尾根の左側に雪が切れた跡と、下部には人が集まっており、ヘリもそこに何度も往復していた。雪の色も変わっており、雪崩の跡だと分かる。大丈夫だろうかという心配と、真砂岳の滑走を予定していたため、予定を変更し、どこが安全か相談し雷鳥沢の尾根を次官を決めて登り、翌日の滑走場所と別の沢を滑ることにし、尾根を登る。段々雪崩の全容が分かり、規模の大きさを知ることとなった。

2600m地点から滑走開始。時間も遅めだったため表面は締まり始めていたが、楽しむことができた。(私はからっきしなので少しでしたが)2時間かけてハイクアップしたのに下るのは一瞬。称名川に降り振り向くと雷鳥沢の一番急な所が雪崩れている。テン場に戻ると、山岳警備隊が、真砂岳の雪崩で7名が亡くなられ、翌日は沢の滑走は控えるようにとのアナウンスをしていた。

翌朝、寝坊をして、朝食のとき、山岳警備隊より「滑走を控えるように」と再度アナウンス。外に出るとガスが出始めており、滑走は諦め、室堂に戻る。ガスはなくならず。山行終了。汗もかいていないが、風呂で汗を流し、富山のB級グルメ「富山ブラック」をたべ、五箇山の合掌集落を観光し帰路についた。

感想:

山スキー二回目で立山を滑れて、修行の必要性を感じたがとても楽しかった。

雪崩の事故に関しては非常に残念であったが、この事故を教訓に、より安全な山行をするため、危険の認識と正しい知識と技術を身につけようと思います。

日本雪崩情報ネットワーク主催の雪崩安全セミナーを受講してきました。

講習内容は、雪崩の基礎知識(書籍に書いてある内容)、統計、過去の雪崩事故例(今回のを含む)

- ・ 雪崩の種類(点発生・面発生)
- ・ 雪崩に遭うとどうなるか(生存率、死因)
- ・ 雪崩トライアングル(地形・雪の安定性・人と施設)
- ・ 統計
- ・ 過去の事故例

→真砂岳雪崩(講師の方の説明)

破断面 185cm(測定地点)、こしもざらめ(雨による形成? :調査中)、西風によるウインドスラブ

天候 11/16-17の晴れ、前日まで4日間の降雪、当日の晴れ

ルート状の地形

評価結果: considerable(5段階の3)

スキーヤーがドロップ後雪崩発生。(スキーカット?)

プレゼンの中でよく出てきたのは「地形とグループマネジメント」でした。

危ない地形を見定め、危ないところに長居しない。

参加者名